

行動計画テーマ2関連

本市農林水産力の向上

～次世代エネルギーや情報通信技術を活用した産業の基礎力向上～

テーマ7: (1) 計画の全体概要

■ 目的

次世代エネルギーも活用した本市農林水産業のブランド等の形成

■ 前提

前提となるICTインフラ、物流インフラ等が整備されていること

■ 展開する主な個別事業

スマートビレッジ(農村・山村・漁村)
モデルの段階的整備による
農林水産力の向上活動※

- ・市内農山漁村それぞれの特性に応じたエネルギーで熱電併給を行い、農林水産物加工、施設周辺のスマート化を推進する。
- ・循環系の構築を進め、ブランド力のさらなる向上を目指す。

未利用バイオマスの
情報集約システム構築※

- ・市内に散在するバイオマス資源の質、量にかかる情報の一元管理を行い、林業やエネルギー事業と同時に、資源の適切な保全・活用のためのデータベースを構築する。

スマートファームの普及と
ローカーボンによる産品流通、
ブランド力の向上と強化の推進※

- ・農家等への受容性調査・分析を踏まえ、水稲作、施設栽培等において省エネや再生可能エネルギー利用、資源循環を行う。
- ・ICTによるトレーサビリティやカーボンフットプリント管理、ロットの大小に応じた流通の効率化等を図り、安全かつ環境負荷の低い川内ブランドを構築する。

消費者との意見交換
ICTシステム※

- ・消費者の安心ニーズ、新たな美味しいものへのニーズが高まる中、品質の高い特産品に対する理解醸成、生の消費者ニーズを獲得するため、ICTを介した生消交流の仕組みを構築する。

スマートビレッジ(農村・山村・漁村)
モデルの段階的整備による
農林水産力の実現※

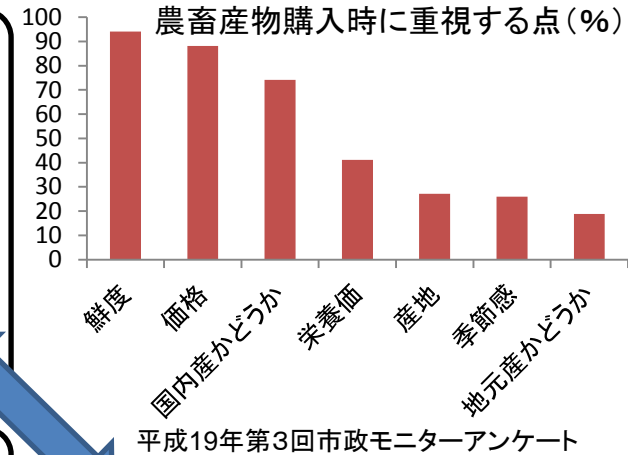
- ・農業副産物、家畜糞尿、水産加工残渣(嫌気発酵)等、農山漁村それぞれの特性に応じたエネルギーで熱電併給を行い、農林水産物加工、施設周辺のスマート化を拡大する。
- ・燃渣や消化液は農地還元等、循環系の構築を進め、ブランド力のさらなる向上を実現する。

※印の項目については、具体的な進め方について後述する

テーマ7：(2)テーマに係る背景

薩摩川内市民等消費生活者の視点

- 地場産農作物、一般的な農作物でも購入先は「デパートやスーパー」、「農産物直売所」が多い(都市住民、市民同じ)。
- 農作物を選択する基準は「新鮮だから」、「安全・安心」、「美味しい」の順。市民は「鮮度」、「価格」、「国内産」の順。
- 家計消費支出額の減少率と食料消費支出額の減少率が同程度で推移するなか、飲食の割合は増加傾向。



薩摩川内農林水産業の視点

- 第1次産業総生産額約45億円のうち6割を農業が占めている。
- 市の農業としては水稻を中心にらっきょうやゴボウ等の園芸重点7品目が中心。畜産業が市の農業生産額の約6割を占めており、その中でも肉用牛と養鶏が畜産生産額の約8割。農家一戸当たりの所得も低くブランド化等による収益向上と各種課題解決意向強い。
- 農業環境は厳しい経営状況が続いており、経営耕地面積、耕作放棄地の増加、旧下甌、旧高江など中心に販売農家の減少と担い手の高齢化が進行。原油価格の高騰等コスト高への対策に腐心。
- 林業は厳しい状況であり、農業との兼業や小規模経営中心だが、「たけのこ」などのブランド化推進と市内大手企業による竹材の活用の取組みなどが進行。
- 漁業も担い手不足等厳しい状況だが、甌島では主要産業であり周辺海域が県内有数の好漁場。定置網漁業が水揚げ量の半分(ブリ等)。甌島のクロマグロなども進行。

競合環境の視点

- 県内の周辺都市は農林水産業が盛ん。地域ブランド化が進んでいる。
- 農林水産物について熊本県や大分県等九州での競争も激しい。
- 6次産業化など地域活性化に向けた取組みは全国的に盛んになってきている。
- TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への参加可能性等安価な海外作物の影響が強く、国内外での競争激化。

《参考》市の農業振興の方針や取組み概要

薩摩川内市農業振興基本計画（平成20年3月）

- 本市農業の振興と農村の活性化を図り、農家の経営安定と所得向上に努め、さらに安全・安心な農産物の生産に取り組むための方向性と施策等を体系的に整理したものを策定。「活かそう地域資源 つくろう安全・安心な農作物 人材力豊かな地域社会を目指して」を計画の将来像にして、7つの基本目標と37の基本施策で構成されている。
- 基本目標3「地域特性を活かした、地域住民が誇れる産地づくり」の基本施策(3)～(5)が、農畜産業で重油等の燃料価格の高騰等の影響を回避する意図等から次世代エネルギーの利用検討を位置づけており、「バイオマス事業研究会」等で検討・取組みを進めてきている。

薩摩川内市農業振興基本計画

活かそう地域資源 つくろう安全・安心な農産物
人材力豊かな地域社会を目指して

※基本目標6「ブランドの確立とPRの充実」についても、特産品開発等農畜産業振興に向けた重点課題と次世代エネルギーの活用との関連が強いことを想定。

基本目標1 地域を守り、農業に意欲的に取り組む、経営感覚に優れた担い手の育成

基本目標2 優良農地の確保と、担い手への農地の利用集積

基本目標3 地域特性を活かした、地域住民が誇れる産地づくり

基本目標4 農業生産基盤及び農村環境の一体的整備と、施設の適正管理

基本目標5 農産物の安全・安心への取組

基本目標6 ブランドの確立とPRの充実

基本目標7 食育や地産地消の推進及び都市との交流促進

次世代エネルギーの利用テーマ

- (1) 特色を活かした農産物の生産振興を行う。
- (2) 地域特性を活かす新技術へのチャレンジを支援する。
- (3) 地域資源を活用する耕畜連携体制を構築する。
- (4) 燃料高騰の対応策(新エネルギー等)を検討する。
- (5) 農業機械・生産施設の有効活用(共同利用)を図る。

次世代エネルギーの利用化関連テーマ

- (1) ブランド産地確立への取組を推進する。
- (2) 消費地における消費宣伝活動を実施し、農産物の有利販売に寄与する。
- (3) 特産品開発に向けた取組を推進する。